

濱田 昌大（はまだ まさひろ）【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：フィリピン共和国 イフガオ州ラガウエ町
職種：コミュニティ開発
赴任期間：2015年7月～2017年7月（予定）



○イフガオ州の機織り産業について

イフガオ州は、ルソン島北部に位置する山岳地帯で、イフガオ族と呼ばれる山岳少数民族が今なお昔ながらの暮らしをしている地域です。イフガオは、約 2000 年前から建設が始まったという棚田郡（ライス・テラス）で有名なフィリピンの一大観光地であり、世界中から多くの観光客が訪れます。特に、世界文化遺産に登録されているバナウエ町のバダッド村やバンガアン村の棚田は有名で、バナウエ町では、終日、多くの外国人観光客を見かけます。

ルソン島北部の山岳少数民族は、昔から伝統的装束を身に付けており、それらの伝統的装束などを生産するために、機織り産業が発達してきました。今日でも、昔ながらの木製の機織り機で、伝統的装束や日用品を生産しています。イフガオ州においては、原材料となるポリエステル糸を基に、機織り製品を生産していますが、一部の製品には、コットンも使用されています。ポリエステル糸は、主に中国から輸入しています。その一方で、コットンは、イフガオで栽培されており、コットン製品は、原材料から生産まで一貫して、イフガオのオリジナルです。また、機織りは、主として、農家の副業として営まれ、農業の閑散期を中心に、農家が自宅で機織りを行います。多くの農家では、自家消費レベルの農作物の収穫しかしておらず、農作物をマーケットで販売することは少ないと言われます。一方で機織り製品は、自家消費のほか、製品をマーケットで販売しますので、農家の現金収入を支えています。

これらの理由から、機織り産業に興味を頂いた私は、イフガオ州、バナウエ町にある機織り女性協同組合の活動支援を始めました。この女性協同組合は、農家が組合員になっており、農業の閑散期を利用して、組合員が機織り工房に集まり、イフガオ族の伝統的装束やスカーフなどの日用品を生産、販売しています。副業とは言え、組合員自らが生産した機織り製品には誇りを持っており、機織り製品の出荷前の品質チェックでは、製品に糸のほぐれなどが少しでもあると、「欠陥品」と見なされて、マーケットへは出荷しません。機織りの職人氣質が垣間見える瞬間です。誇りをもって、一枚一枚、丁寧に機織り製品を仕上げる組合員たち。一方で、農家出身だからでしょうか、「販売」することはどうも苦手のように、私の方でマーケティングを行い、機織り製品の販売をサポートすることにしました。先ほど、日用品も生産していると述べましたが、製品の特長からして、フィリピン人相手に拡販が可能と判断しましたので、イフガオ州都、ラガウエ町の衣料店のオーナーとの交渉の結果、新たに機織り女性協同組合の販売代理店をつくり、ラガウエ町でも販売を始めました。現在、週1回、私の方で、女性協同組合の製品を販売代理店に納品し、また販売代理店から売上げ代金の回収を行い、売上げ代金を女性協同組合に納入しています。

また、生産面のサポートも同時に取組み、青年海外協力隊（デザイン隊員）のアドバイスを受けながら、新たなデザインとカラーのプレイスマットやコースターを開発。現在、新製品の開発を進めているところです。新製品の開発では、海外からの観光客をターゲットにしているため、フィリピン人が好きなビビッドなカラーのデザインではなく、観光客からも好まれる落ち着いたライトグリーンやブルーなどを基調としたデザインやカラーの新製品を開発しています。

イフガオ州を観光すると、機織り製品（Weaving products）や木彫り製品（Wood products）を職人が作っている瞬間に立ち会えるかも知れません。イフガオを観光する機会がありましたら、一度、職人を訪ねてみては如何でしょうか。



バナウエ町の機織り女性協同組合の様子。組合員が機織り製品を生産している。



コットンで機織りする場合は、機織り機を使用せず、最も伝統的な方法で機織りを行う。